

# 東京大学医学部附属病院緊急物資支援連合

東京大学医学教育研究診療支援  
一般財団法人 好仁会

1. 大震災時「東大病院」には、多数の怪我人や他医療施設から重篤患者等が搬送され、診療機能を早期に構築することが最大の使命である。
2. 「阪神淡路大震災」、「東日本大震災」時には、「救援物資」、「ボランティア」支援が整ったのは、震災後約1週間を要している。
3. 「医薬品・医療材料」等の「医療直結物資」の確保は東大病院が責任を持ち、「食料飲料、衛生材料」等の「救援物資」の確保は好仁会が責任を持ち、地域や企業の協力を得て「東大病院緊急物資支援連合」を創設、震災直後から全国からの救援物資が到着するまでの約1週間、支援連合加盟の各事業所が「救援物資」を有償提供する体制を構築する。
4. 支援連合代表の好仁会と各事業所が「支援協力確認書」を締結、多数の各事業所と締結した支援連合代表の好仁会が東大病院長と「支援協定書」を締結（25・8・27）する。
5. 「緊急物資」は、東大病院と連携して定期的に見直しを行い、必要に応じて改定（修正）する。
6. 「緊急支援協力の発動」は、大震災発生時には東大病院内に「災害対策本部（本部長 病院長）」が設置され、支援連合代表の好仁会理事長が本部長の判断を仰ぎ発動、「緊急連絡網」を通じて支援依頼開始される。

東京大学医学部附属病院緊急物資支援連合構想図（イメージ図）

